

ひろしま木育アカデミー2022 第7回林業編「林業体験活動を取り入れた木育」を11月12日(土)に県立もみの木森林公園にて開催しました。

はじめに、「木の成長と利用」について木村よりお話ししました。スギ丸太の輪切りを見ながら木がどうやって太く成長するのか各部の名称を示しつつ、年輪を数えました。そして、年輪を数えた丸太から家の材料(今回は105mm角の柱)を切り出すことができるか確認しました。それらを通して木の成長と利用、人工林の手入れと利用について考えました。次に、「林業と木育」として、林業の仕事と人工林の手入れの理由と方法、林業の課題と解決に向けてについて細田林業株式会社の細田宗嗣様よりお話しいただきました。特に、持続可能な社会実現や二酸化炭素排出量を削減、林業の機械化・IT化という流れの中で、広島県の森林の再造林率(皆伐した後に植林している面積の割合)が15%であるという現状と理由として儲からないからと言われているけど実際にはどうなのか、山元の立木価格の安すぎる現状と原因について、データを示しながらお話しいただきました。「循環する社会というものを本気で考え、循環していく社会にしていくなかには何が必要なのか考えていかなければならない。」という最後の言葉がとても印象深く、考えさせられるものでした。最後に、細田様と一場より「林業から見た木育の意義と可能性」について、ご自身の考えをお話しいただきました。その中で「考えるためには知ることが必要」というご意見は木育に関わらず変化の速い現代社会を生き抜く上でとても大切なことであると思いました。



午後は、はじめに「人工林の手入れを体験しよう」として、細田林業様が所有されている人工林まで歩き、植林と枝打ちの体験を行いました。植林は、数年前に皆伐・植林を行った16haの山の補植(苗木が枯れてしまったところに再び苗木を植える)を行いました。私自身、植林を行うのは初めてで、穴を掘って植える作業を1haにつき2,000本も行うとお聞きして、改めて大変な作業であると実感しました。枝打ちは、植林後30年程度経過した人工林の木の枝をのこぎりで切り落とす作業を行いました。実際にやってみると植林同様に大変な作業でした。現在は柱や梁が見えない大壁の家が多いため(強度に影響がなければ)節があっても問題無いけど、次の世代のことを考えると…と思いました。最後の「木育プログラムを企画しよう」では、ここまでの活動の中で感じた疑問点などを共有すると共に、細田様にコメントを頂きました。

7回目のひろしま木育アカデミー2022は、木材を生み出す森林・林業の現状と未来、大変さと大切さを様々な体験を通して考えるきっかけとなることを目指して一連の活動をプランニングしました。反省点も多々ありましたが、木育の意義を考える場になったのではと考えています。



次回（本年度最終回）は、12月18日（日）第8回「企業における木育」を無印良品アルパーク店 OpenMUJI にて開催いたします。「なぜ企業で木育？」として、取り組む意味、今後の可能性などを代表の一場未帆より、木材利用と環境との関りについて県立広島大学の小林謙介先生よりご講演頂く予定です。また、企業における木育の実践事例の紹介として、無印良品広島アルパーク、ダイハツ広島販売、アサヒグループジャパン株式会社の皆様にご講演頂く予定です。木育を別の視点から知る・考える機会になるとと思いますので、企業に所属されている方はもちろんですが、木育を知りたい・考えてみたい多くの皆様の参加をお待ちしております。

文責：木育普及委員会 副代表 木村 彰孝